

クローンカイトカナダ症候群内視鏡カラーアトラス作成

研究分担者 穂苅量太 所属先 防衛医科大学校内科学 役職 教授

研究要旨：クローンカイトカナダ症候群は指定難病 289 に認定されているが、報告数は世界で 500 例に対し、本邦で 360 例と国民病の側面がある。世界的に見てもアトラスはなく、本邦では有利な環境にあるが各施設の症例は少なく、班会議で共同研究として症例を持ち寄り、アトラスを作成することが重要と考えられ、88 症例からなる世界最大のアトラスを完成させ公開した。すべての症例の内視鏡所見と臨床経過を網羅し、臨床経過の特徴に沿って分類した。さらに、英語版を作成し、出版した。

共同研究者

東山正明¹、八月朔日秀明²、松本主之³、大井充⁴、細江直樹⁵、中村正直⁶、柿本一城⁷、大宮直木⁸、大島忠之⁹、矢野智則¹⁰、諸井林太郎¹¹
1)防衛医科大学校内科学 2)自衛隊仙台病院
3) 岩手医科大学消化器内科消化管分野
4)神戸大学医学部消化器内科 5)慶應義塾医学部内視鏡センター 6)名古屋大学医学部消化器内科
7)大阪医科大学消化器内科 8)藤田医科大学消化管内科
9)兵庫医科大学消化管内科 10)自治医科大学消化器内科 11)東北大学消化器内科

A. 研究目的

難病で、希少疾患であるクローンカイトカナダ症候群の症例を全国から収集し内視鏡アトラスを作成し、診療の一助になることを目指す。

B. 研究方法

多施設共同でクローンカイトカナダ症候群の症例を有している施設より内視鏡像、治療経過、病理像等を含めたアトラスを作成する。

（倫理面への配慮）

倫理委員会承認済み

C. 研究結果

全国のクローンカイトカナダ症候群の診療実績のある施設から、情報を収集した。アトラス作成を行い 88 症例の診断、治療経過、臨床的特徴、病理学的特徴を明らかにし、疾患活動性分類を作成した。内視鏡的分類を作成した。臨床経過ごとに症例は分類して提示した。日本語版アトラスをホームページで公開し、印刷物も作成し配布した。また英語版を作成し、出版した。

D. 考察

クローンカイトカナダ症候群は本邦に多く、全国的な症例の収集で臨床経過や内視鏡像がいくつかのパターンに分類できる可能性が示された。病理学的特徴も一様ではないことが示された。治療に対する反応性も一様ではないことが示された。これらのデータを元に、レジストリーを本邦で構築することが本疾患の診療の一助になることが期待できる成果と考えられた。また、英語版を作成したことは広く海外に今回の情報を伝えることになったと考えられる。

E. 結論

クローンカイトカナダ症候群アトラス作成を行い世界最大規模の症例の診断、治療経過、臨床的特徴を分類する資料を作成した。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし